

## 「植物標本を作る (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

身近な場所でその季節の植物を観察することは、小学生にとって新鮮で楽しい活動である。しかし、野外にノートや観察カードを持ち出して、その場で植物を観察するのは、なかなか難しい。普通は、観察したい植物の一部を教室に持ち帰って、机のある場所でじっくり観察させることが多いだろう。



観察が終わった植物にも使い道がある。そのままチャック付きのポリ袋に入れて持ち帰ったり、R1 (乳酸菌飲料の小さな PET ボトル) にさして飾るという子どももいる。しかし、そのままにしておくとうすぐに萎えて、大半捨てられてしまう。これはあまり良くない。



私は植物標本を作る方法を教えることにした。植物標本は腊葉標本 (さくようひょうほん) にするのが普通である。つまり「押し花」だ。古新聞や古い電話帳

など、水分の少ない紙に挟んで、上から圧力 (重し) をかけるのが最も簡単である。しかし、学校に「使い道のない紙ですのでご自由にお使いください」という紙や、古い作文用紙が何千枚もあるので、それを半分に折って使うことにした。



専門家がつくる完模式標本 (学名を決定する重要な標本) の場合、植物体のすべて (葉、花、茎、根、果実や種子まで) が揃っていないといけない。ところが、小学生が採ってきた植物は「お花だけ」「葉っぱだけ」ということも多い。それらをただ紙の上に乗せて、形を整え、はさむだけの作業である。しかし、腊葉標本を作るのが始めてという子どもが多く、非常に新鮮な体験だったようだ。



腊葉標本を作る基本は「植物体の水分を紙に吸い取らせる」ということだ。腐敗やカビの発生を防止できる。同時に三次元的な植物体を平面に近くして、保存を容易にする。写真は、腊葉標本を作り始めてから約一週間後の様子だ。ツタ、カラスノエンドウ、シダ、ハルジオン、ツツジなどが見られる。しかしこのままで完成ではない。「手入れ」が必要なのだ。